

平成30年度第2回 江別市子ども・子育て会議要旨

日 時：平成30年7月24日（火）午後2時～

場 所：江別市民会館 36号室

出席者：江別市子ども・子育て会議委員11名

石塚誠之委員、内舘佳子委員、木村吉憲委員、久保靖代委員、鷹架諭委員、高本亮委員、土田梨乃委員、鶴田百恵委員、林大輔委員、藤野友紀委員、山川修司委員

江別市（事務局）7名

佐藤健康福祉部長、西田子育て支援室長、四條子育て支援課長、中村子ども育成課長、尾崎子育て支援課主査（計画担当）、今野子育て支援課主任、下村子育て支援課臨時職員

傍聴者：3名

1 開会

○四條子育て支援課長

開会あいさつ。委員14名中11名の参加報告。

2 議事

○藤野会長

それでは、当会議の開催に際し、傍聴者の入室を許可したいと思います。事務局は、傍聴者を会場に案内してください。

——傍聴者3名入室——

○藤野会長

改めまして、次第2議事の（1）協議事項「子どもの生活実態調査について」、事務局から説明をお願いします。

○四條子育て支援課長

初めに資料の確認をさせていただきます。資料1-1が「小学5年生、中学2年生子ども用調査票」、資料1-2が「高校2年生子ども用調査票」、資料1-3が「小学2年生、小学5年生、中学2年生保護者用調査票」、資料1-4が「高校2年生保護者用調査票」、参考資料は、北海道が実施した「小学5年生、中学2年生子ども用調査票」、「高校2年生

子ども用調査票」、「小学2年生保護者用調査票」、「小学5年生、中学2年生保護者用調査票」、「高校2年生保護者用調査票」になります。資料2が「第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について」です。

それでは「子どもの生活実態調査について」ご説明いたします。第1回の会議でも調査の概要についてご説明いたしましたが、本日の会議では、先に実施しております北海道の調査票と江別市の調査票の共通する項目や、江別市独自の項目につきまして協議していただきたいと思っております。

なお、先日委員の皆様へ送付しました調査票から若干修正があり、後ほど修正部分の説明をいたします。

では、調査の概要につきまして、担当より説明いたします。

○尾崎子育て支援課主査（計画担当）

それでは、子どもの生活実態調査の概要をご説明いたします。

まず、前回の会議でもご説明いたしましたが、この調査の目的は、子どもの生活環境や子育ての状況を把握し、子どもに係る今後の施策を検討する基礎資料とするためです。

調査対象者は、江別市内の小学2年生の保護者、小学5年生、中学2年生、高校2年生の児童生徒及び保護者であります。

調査方法は、小学2年生、小学5年生及び中学2年生は、学校を通じ配付及び回収を行い、高校2年生は、郵送にて配付及び回収を行います。

調査票の配付時期は、小学2年生、小学5年生及び中学2年生は、夏休み明けに配付をお願いする予定であります。高校2年生は、8月20日頃に郵送予定であります。

調査票の回収時期は、小学2年生、小学5年生及び中学2年生は、学校への調査票の提出締め切りを9月7日までとし、9月10日又は9月11日に回収する予定であります。高校2年生は、9月7日投函を締め切りとする予定であります。

配付物は、小学2年生は、協力依頼文と保護者用調査票であります。小学5年生、中学2年生及び高校2年生は、協力依頼文と保護者用、子ども用それぞれの調査票と回収用封筒も同封する予定であります。

調査票の内容は、お手元にあります資料1-1から資料1-4であります。

事前に資料を送付した際にも記載しておりますが、江別市と北海道の調査票を比較して重複している設問については、江別市の調査票は「赤字」で表記し、北海道の調査票は「黄色」でハイライト表示しております。

なお、表現等に若干の違いがあっても江別市と北海道の設問の内容が重複していると考えられるものについては、色付けしています。

内閣府から例示されている調査項目は、1つ目に貧困の状況にある子どもや家庭のニーズの所在を把握するもの、例えば、支払の遅延や購入をできなかった経験の有無があります。2つ目に自治体で実施している施策の認知度、利用度及び利用意向に関する調査項目、例えば、施策に関する情報収集の方法を把握するものや、経済的支援など施策ごとの認知度、利用度及び利用意向を把握するものがあります。

江別市と北海道の調査票を比較し、貧困との関連が高いと考えられる設問を中心に重複

させております。

北海道の調査票で設問数が一番多い小学2年生保護者の調査票は、11ページで40問ありますが、江別市の調査票で設問数が一番多い小学2年生、小学5年生及び中学2年生の保護者の調査票は、7ページで24問となっております。

北海道と重複していない設問は、他市町村の設問を参考としたほか、江別市独自の設問としては、自己肯定感や江別市奨学資金貸与制度など、教育委員会と協議し、設定したものがああります。

設問は答えやすく、集計作業がしやすいように極力「○」を付けることとしております。

回答いただいた調査票には、ナンバリングをします。ナンバリングの内容は、アンケート集計を学校にフィードバックするための学校番号と、親子のマッチングするための世帯番号を合わせて付番いたします。

ナンバリングを終えた調査票は、委託業者が入力作業を行い、10月末までに単純集計が、12月中旬までにクロス集計結果の調査報告書（案）が納品される予定であります。

なお、この調査票の設問等は、教育委員会や市立小中学校長会事務局にもご確認いただいております。

本日の会議では、調査票の設問の内容や設問の追加と削除などについてご意見等をいただきたいと考えておりますのでお願いいたします。

○四條子育て支援課長

補足させていただきます。お手元にある調査票と先日事前に送付しました調査票から大きく変更した部分についてご説明します。調査票全体についてですが、形容詞によって答えが左右される可能性がある設問については、「とても」、「大変」などをいくつか削除しています。

設問の追加では、資料1-2の「高校2年生子ども用」の問2「平日（学校に行く日）の放課後、誰と一緒に過ごすことが多いですか」の設問に「アルバイト先の友達」を、問3「平日（学校に行く日）の放課後、どこで過ごしますか」の設問に「アルバイト先」を、問9-1「就職を希望する理由」の設問に「就職したいと思ったから」及び問12「平日（学校に行く日）は誰と晩ごはんを食べますか」を加えております。

次に資料1-3の問23「子育て支援環境の充実のための支援策について」の回答方法を「強く思う」から「思わない」の5択から、必要性が高い順に番号を記入してもらう回答方法に変更しております。これと同じ設問で資料1-4の問24の回答方法も変更しております。

その他、字句の修正等を行っております。

○藤野会長

只今の説明について調査票の数が多いので子ども用と保護者用に分けて質疑をお願いいたします。

それでは、子ども用調査票について委員の方から質疑がございましたらお願いいたします。

○山川委員

資料1-1の問2の中に「部活動の友達」とありますが、小学5年生は必要ないと思

ますので、設問を考えてほしいです。同じく「地元の友達」とありますが、小学5年生にはイメージが湧きにくいと思いますので、問3のように「学校以外の友達」の表現の方が分かりやすいと思います。問4の「地元の友達」とありますが、これも同じです。

資料1-1の問6「成績は、クラスの中でどのくらいか」の設問は、調査目的とどのような関係があるのか教えてください。

資料1-1の問14「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の設問は、調査目的とどのような関係があるのか教えてください。

資料1-1の問17「以下の場所を利用したいですか」の設問の中の1段目、2段目と同じく他の段落にも「家以外で」を入れた方が分かりやすいと思います。

○四條子育て支援課長

ご意見いただいた「部活動の友達」ですが、小学5年生は「まったくない」に答えてもらうか、「習い事」などにするか検討したいと思います。「地元の友達」は、小学5年生にも分かりやすい表記に変更するよう努めます。

問6「成績は、クラスの中でどのくらいか」の設問ですが、この調査との関係性は、経済状況と学力の関係に着目して含めた設問であります。同じく問14の「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の設問は、問6とクロス集計を行うために対になるものと考えておりますので含めました。

○山川委員

問6「成績は、クラスの中でどのくらいか」の設問は、全国で学力状況調査等の中で、ある程度明らかになっていると思います。もし、自分の成績について答える場合は、「よい」、「よくない」と書くよりも例えば、「学習がわかる」、「学習がだいたいわかる」、「学習があまりわからない」、という書きの方がいいと思います。小学校は、絶対評価をしており、中学校のように5段階評価をしておりません。子ども一人ひとりの頑張りを認めるような評価をしております。

問14「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の設問は、子ども自身に関係がないと思います。クロス集計で必要ならば、子どもにとってダメージの少ない表現がいいと思います。

○四條子育て支援課長

問6の「成績は、クラスの中でどのくらいか」の設問は、北海道の「小学5年生、中学2年生の子ども用調査票」の問27の「学校の授業がわからないことがありますか」の設問のイメージでいかがですか。

○山川委員

いいと思います。

○四條子育て支援課長

そのような表現で調整いたします。

問14「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の設問は、軟らかめな表現を考えていきたいと思います。

○石塚委員

回答の表で○を付けてもらう12345の数字は、量を表すものではなく、集計するも

のだと思います。江別市の回答の表では、まず目に数字が入っていますが、北海道の回答は1-2-3-4-5と表記されています。何か考えがあって、まず目に数字を入れているのですか。

○四條子育て支援課長

特に深い考えはありません。白、グレー、白、グレーと表記することによって、視覚的な見やすさを意識しております。

○石塚委員

北海道のように横棒での表記が見やすいと思っていました。数字を囲ってしまうと数量を意識してしまうので、縦の線を消していいかと思います。

○四條子育て支援課長

調査票の数字自体には、意味がありません。数字は、後ほど調査票の入力作業をしてもらうためのものです。縦の線を消してみても、答えやすいか検討してみます。

○鷹架委員

資料1-1の問14「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の回答は、「お金持ちだと思う」というような表現だと軟らかいと思います。

資料1-2の問13-2「先月のアルバイト代」の設問の意図を教えてください。この「アルバイト代」を「あなたが使えるアルバイト代」に変更した方がよいと思います。

○四條子育て支援課長

資料1-1の問14「経済的に家の暮らしは、どれにあたるか」の回答は、お子さんにとって抵抗感がない表現の参考といたします。

資料1-2の問13-2「先月のアルバイト代」の設問は、北海道と同じ設問です。高校生が5万円以上の金額を得ている場合は、学業がおろそかになる可能性につながると思いますし、問13-3「アルバイトをする理由」の設問は、アルバイトをする理由に学費や生活費があれば子どもの貧困指標のひとつになると考えられるので、「あなたが使えるアルバイト代」ではなく、「先月のアルバイト代」の設問で考えております。

○藤野会長

資料1-1の問13「自分で使うことができるもの」の設問は、北海道の「小学5年生、中学2年生子ども用調査票」の問6に似た設問です。北海道の設問は、「ない」に「ほしい」「ほしくない」と分かれておりますが、江別市は「ない」しかない意図を教えてください。同じ問で、北海道は「インターネットにつながるパソコン」が、江別市は「ゲーム機」に変わっていますが、その意図も教えてください。

○四條子育て支援課長

江別市の設問も「ある」「ない」に「ほしい」「ほしくない」と分けるかどうか、内部で検討したところ、「ない」とした方のほとんどが「ほしい」と回答されるのではないかととなり、3択よりも2択でシンプルに選ぶ形式としました。委員の皆さんのご意見をいただいてから調査票を確定したいと考えておりましたので、「ない」に「ほしい」「ほしくない」の形式で検討したいと思います。

「インターネットにつながるパソコン」は、子ども用なのか、家庭用なのか不明確であると考えまして、他の市町村の調査票を参考に「ゲーム機」といたしました。北海道にな

い設問の「2以上のサイズの合った靴」は、他の市町村の調査票にあり、貧困を探る設問の1つになると考えて加えております。

○藤野会長

北海道の調査票の集計結果をみて「ない」の「ほしい」「ほしくない」の項目がほとんど「ほしい」であれば、「ある」、「ない」の回答形式でいいと思います。

○四條子育て支援課長

北海道の調査票の集計結果では、「子ども部屋」であれば、8割以上が「ある」です。「ない」のうち「ほしい」「ほしくない」は大部分が「ほしい」となっておりますが、「ほしくない」という回答も一部あります。「自分専用の机」では、9割が「ある」ですが、「ない」のうちの「ほしい」「ほしくない」では、「ほしくない」の方が多いです。

○藤野会長

「ない」の「ほしい」「ほしくない」の設問がクロス集計でポイントとなる回答であれば設定した方がいいと思いますし、この設問でクロス集計する予定がないのであれば、「ある」「ない」でいいと思いますので検討していただきたいです。

○四條子育て支援課長

北海道がクロス集計の対象としているのは、「親の年収」です。子どもの回答に「親の年収」をクロス集計しています。「ない」に「ほしい」「ほしくない」と回答するかどうかは、改めて検討いたします。

○藤野会長

「インターネットにつながるパソコン」について触れた理由は、親がインターネットにつながるパソコンを使うことができるか否かをこの設問で探れる可能性があると考えたからです。「ゲーム機」は、子どもの娯楽で楽しみだけです。その家の文化的環境の分析をしないのであれば、「ゲーム機」でいいと思います。

○四條子育て支援課長

「インターネットにつながるパソコン」につきましても、含めるか否かの検討をしたいと思います。

○林副会長

資料1-1の間16「嫌なことをされたことがありますか」の設問は、いじめと貧困の関係を結びつけていると考えられますが設問の意図を教えてくださいと、回答の「○はそれぞれ1つ」では、それぞれの学年にわたって「無視をされた」場合に○が付けづらいと思います。

○四條子育て支援課長

「あてはまるものすべてに○」に変更します。この設問は、江別市独自の設問ですが、北海道の「小学5年生、中学2年生子ども用調査票」の間33を参考にしております。北海道の設問は、「1か月に受けたいじめ」の設問ですが、「どの学年でいじめを受けたか」の設問の方がよいと考えて、回答の選択肢について変更しています。

設問の意図は、「いじめ」という名称を使わないように配慮して、家庭の経済状況と「いじめ」の関係性を確認する目的で設定しました。

○鷹架委員

資料1-1の問13「自分が使えるもの」の設問で「ゲーム機（きょうだいと一緒に使っている場合を含む）」は、家族で1つのゲーム機を使っている場合は、答えづらいと思います。

○四條子育て支援課長

検討させていただきます。

○石塚委員

資料1-1の問15「自身をどのように思っているか」の設問は、何を参考にした設問なのか教えてください。

○四條子育て支援課長

この設問は、道外他市の調査票の設問を取り入れています。

○石塚委員

問15の設問に逆転項目を1個入れて、きちんと読んで答えている確認をした方がいいと思います。

○藤野会長

資料1-1の問5「学校への気持ち」の設問は、逆転項目が入ったものになっています。

問15も問5にならって修正することでいいですか。

○四條子育て支援課長

検討させていただきます。

○藤野会長

資料1-1の問16「嫌なことをされたことがありますか」の設問は、クロス集計をする予定ですか。

○四條子育て支援課長

今のところクロス集計する設問まで具体的に決めておりませんが、この設問は経済的な状況と兼ね合いを見るべき項目だと考えております。

○藤野会長

北海道の「小学5年生、中学2年生子ども用調査票」の問34は、「いじめの加害」の設問ですが、家庭の状況が悪く、いらいらしてそのはけ口として外に向かうような可能性もありますので、経済状況とクロス集計させる場合に「いじめの被害」だけでなく「いじめの加害」についても聞いた方が、有効な結果が得られると思います。

○四條子育て支援課長

内部で検討した際、「いじめの加害」をお子さんに○を付けさせることは、事務局の考えすぎかもしれませんが、精神的負担についての話がありました。校長先生の山川委員は、どうお考えですか。

○山川委員

「いじめの加害」と経済的な結び付きを調べるのであれば「いじめの加害」を入れても、子どもが○を付けることが精神的負担にはならないと思います。

○藤野会長

これは、「いじめの加害」だけでなく「いじめの被害」も同様だと思います。いじめを受けて嫌なことを思い出すのは、「いじめの加害」の子どもだけでなく、「いじめの被害」の

子どもも同じです。最近のいじめの原因は、被害者と加害者が明らかではなく、被害者が加害者になったり、またその逆になると指摘されていますので、両方聞いた方が実態も分かりやすいと思います。

○四條子育て支援課長

検討いたします。

○藤野会長

概ね質問も出尽くしたようですので、次に保護者用の調査票について質疑をお願いします。

○木村委員

資料1-3の間23「子育て支援環境の充実」の設問は、前は「強く思う」から「思わない」の5択でしたが、今回配られた調査票の回答方法は、「必要だと思う順に番号で記入」する方法です。必要性を選ぶのは大変だと思いますので、1つ1つ答える前の回答の方がいいと思います。

北海道の「子どもの生活実態調査」にあり、江別市の「子どもの生活実態調査」にない設問ですが、貧困の背景を探るために「親の最終学歴」と「15歳ごろの家庭の経済状況」を追加することが必要だと考えます。

○四條子育て支援課長

先に送付した調査票は、各項目につきその必要性を問う設問ですが、全部「強く思う」と回答いただいたときに、施策の優先順位が付けづらいので、より必要なものの順位を付けていただくことで、江別市の保護者の方のニーズが高いものから検討していくために回答方法を変更しました。回答方法は、皆さんからご意見をいただきたいと考えています。

○木村委員

施策の優先順位は、「強く思う」の○が多い順に検討をしていけばよいと考えます。保護者が順位を付ける方が余計な迷いを生じさせると考えます。

○藤野会長

四條子育て支援課長が危惧された点は、大多数の方が「強く思う」と○を付けた場合に、優先順位が分からなくなることです。一方で木村委員のご意見は、「必要性が高い」と「必要性が低い」ものの順位を付けることに迷いは生じないが、真ん中の順位を付けることは迷いが生じるとのことです。例えば、優先順位を江別市で把握したいと考える場合、「必要性が高いものを3つまで○を付けてもらう」方法でしたら○が付けやすいと思います。

○四條子育て支援課長

会長からご提案いただきました「必要性が高いものを3つまで○を付けてもらう」に変更することで、施策の優先順位を導き出せると考えます。

2つ目のご意見の「親の最終学歴」と「15歳ごろの家庭の経済状況」は、設問数が多くならないように削除した設問でした。この設問は、子どもの進路の関係や子どもの置かれている生活状況に関係性があると思いますので、検討させていただきます。

○鷹架委員

資料1-3の間23「子育て支援環境の充実」の設問の回答方法ですが、同順位だった

場合に同じます目に番号を記入してもらい、空欄のあるます目があってもいいと思います。

2つ目の意見ですが、この調査は、個人の情報について特定させることはないとなっておりますが、個人情報保護法に基づき、この調査票の利用目的はこの集計に限定しますという一行があってもいいと思いました。

○四條子育て支援課長

様々なアンケートの取り方があると思いますが、今いただいているご意見の中で施策の優先順位を決めることができる回答で検討いたします。

2つ目のご意見につきましては、この調査票の利用目的について依頼文書に記載いたします。

○山川委員

小学2年生と小学5年生のお子さんがある保護者は、調査票を2部回答することになり、負担が大きいと思います。

○四條子育て支援課長

そのとおりですが、調査票は親子で同じ封筒に入れてもらいマッチングを行います。今回の調査では親子のマッチングは重要ですので、その点をご理解いただき、依頼文書でも触れていきたいと思います。

○藤野会長

資料1-3の間8「教育を受けさせるためのお金の準備」の設問の回答で「(○は1つ)」とありますが、併用する方もいると思います。

○四條子育て支援課長

併用はあると思いますので検討いたします。

○石塚委員

資料1-3の間23「子育て支援環境の充実」の設問は、支援として必要性の高いものの当たりをつけていますか。

○四條子育て支援課長

イメージとしては、高校や大学の進学に係る負担軽減や進路情報は、ニーズが高いと考えております。住宅支援は、既に住宅取得助成を行っておりますので、それほどニーズが高くないと考えております。

○石塚委員

設問の文章が丁寧だと思いますが、もう少し短い文章であれば、○が付けやすく、読みやすくなると思います。

○藤野会長

概ね意見が出尽くしたようです。

○四條子育て支援課長

委員の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございます。ご意見を受けまして、さらに事務局で検討を行い、修正した調査票についてご意見をいただきたいと思います。調査票印刷の都合がありますので、時間がない場合は、会長と副会長に修正した調査票についてご意見をいただき、調査票を確定させたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○藤野会長

次の次第2議事の(2)報告事項「第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について」、事務局から説明をお願いします。

○四條子育て支援課長

それでは、「第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について」ご説明いたします。

現在の子ども・子育て支援事業計画は、平成32年3月までの計画になります。前回、計画策定に向けた作業を行ったときも同じですが、内閣府からの基本指針に従いまして、ニーズ調査を実施し、そのうえで量の見込みと提供体制を定めた経緯があります。第2期計画の策定を控えておりますので、この時期に一定程度ニーズ調査の報告を考えておりましたが、6月又は7月に内閣府から届く予定であった基本指針が届いておりません。今回の子ども・子育て会議では、ニーズ調査の概要説明となりますのでご了承いただければと思います。

それでは、ニーズ調査の概要につきまして、担当より説明いたします。

○尾崎子育て支援課主査(計画担当)

それでは、資料2の「第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について」ご説明いたします。

1. 調査目的は、現行プランが平成27年度から平成31年度までを計画期間としておりますので、今年度予定しているニーズ調査は、第2期プラン(2020年度から2024年度)を策定するため、国から示される基本指針に基づき実施する予定です。

2. 調査内容は、計画策定にあたり、基礎資料となる子育て世代の子育てサービスの利用状況、利用希望及び就労状況等についてニーズの変化等を的確に把握する内容の予定です。

3. 調査票は、国から示される基本指針に基づき調査票(案)を作成し、次回の子ども・子育て会議においてご意見等いただき、確定する予定です。

4. 調査方法は、調査直近の住民基本台帳から小学生までの子どもを無作為に抽出する予定です。

5. ニーズ調査のスケジュールは、記載のとおりです。

○藤野会長

只今の説明について委員の方から質疑がございましたらお願いします。

(なし)

意見等がございませんので、次の議題に移りたいと思います。

次に次第3「その他」について事務局から何かございますか。

○四條子育て支援課長

今回の会議日程ですが、秋頃を予定しております。第2期プランのニーズ調査の内容報告と現計画の進捗状況報告を議題として予定しております。委員の皆様には事前に日程調整させていただきますのでよろしく申し上げます。

○藤野会長

只今の説明について委員の方から質疑がございましたらお願いします。

(なし)

意見等がございませんので、本会議で予定している事項についてはすべて終了いたしました。

以上で平成30年度第2回子ども・子育て会議を終了いたします。